

# ～子どもたちの意見表明～

安全委員会9周年おめでとうございます、ぼくは、今小学校6年生です。

今年は去年より暴力を人にふるう回数が少なかったです。それは外でたくさん遊んだり好きなサッカー観戦に行ったりユニットでたくさんお手伝いをしたり、暇な時間を少しでも減らして、楽しいことにエネルギー使うことが多かったので暴力をふるうことが少なくなりました。

でも、日々年上の人に対して口が悪くなったり、ムカついたときに人に蹴ったりしてしまったので中学生になる前には口で相手に嫌な事は話して暴力がなくなるように頑張ります。そして春から中学生になるのでサッカー部に入ってサッカーを一生懸命頑張ります。

ポフラ 小6 高橋宏哉



私は、来年中学校を卒業します。中学生に入ったばかりの私は、落ち着かなく、暴言を言ったり、同じユニットの人にはつ当たりをする事もあったけど、中学校三年生になってから、暴言もハツ当たりも少なくなった。でも学校では、気持ちのコントロールが、上手くいかなくなる事があるので、これからは直していくように頑張ります。それともっと生活の中で暴言を減らしていくように、頑張ります。残り、半年の中学校生活を悔いのないように過ごして行きたいです。

来年は、高校生になるので、人に迷惑を掛けない人になりたいです。あと、優しい人になりたいです。

ライラック 中3 高橋恵美



いま、ぼくは、はばたきユニットで生活をしていて、みんなでサッカーをしたり外遊びをしたり、お出かけをしたりするのがとても楽しいです。

でも、みんなで生活をしているとケンカをしてしまうこともあります。だけど、安全委員会をしたときに相手の話を聞くことで、相手の気持ちを知ることが出来正しく解決できることが増えました。

これからはケンカが減っていくようにがんばり、みんなで楽しく安心した生活が送れるように頑張ります。

はばたき 小4 高橋光宏

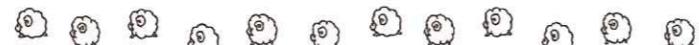
私は今年から白樺で生活しています。

慣れない環境の中で戸惑うこともあったけど、今は白樺のみんなと楽しく生活することが出来ています。私は普段から口が悪くなってしまうことがあります。みんなと仲良く生活するために、乱暴な言葉遣いをしないように心がけています。でも、怒った時に自分でコントロールが出来ず人にあたってしまうことがあるので、気持ちをコントロールすることを自分の目標にしました。

これからも、白樺のみんなと楽しく安心で安全な生活が出来るように頑張ります。

白樺 中1 宮崎留衣

## 卒園した子どもからみんなへ



安全委員会9周年おめでとうございます。

今私は、児童養護施設を卒園して、保育士を目指して日々頑張っています。

保育士の実習では自分が思っていたより大変で辛いものもありましたが、安全委員会での学びや今まで園の先生方にたくさん支えられたお陰で専門学校に行くことができたので、自分の夢を諦めずに頑張っています。来年、私は専門学校を卒業するので、園の先生方に少しでも恩返しを出来たらと思っています。

平成30年度卒園生 松島結里奈



# ～田嶽先生研修会～

研修テーマ：「改めて安全委員会方式の基礎を学ぶ」

講師：羊ヶ丘養護園安全委員会顧問

九州大学名誉教授 田嶽誠一氏

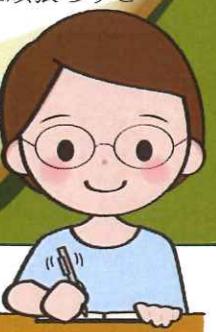


令和元年11月25日、本園で行われた9周年記念集会のため田嶽先生に来校して頂くことができ、職員への園内研修会とケースカンファレンスが開催されました。

当園の安全委員会は9周年を迎えたが、職員は安全委員会対応のマンネリ化を感じながらどう改善していくべきなのかを課題としてきました。生活の土台となる施設や施設に関わる全ての人的・物的環境を理解し整備しながら、個人としてだけではなく組織的に子どもを育てていくこと、安心な環境を作っていくことを大切にしていく、施設をあげて羊ヶ丘養護園の子ども達が生き生きと安全・安心を感じ生活していくことができるような施設づくりをしていくことを再確認しました。

午後からは、今回厳重注意を受けた子ども含め、現在対応に苦慮している3つのケースカンファレンスを行いました。このケースカンファレンスでは個々の子どもの現状に応じた対応策を具体的に学ぶことができました。

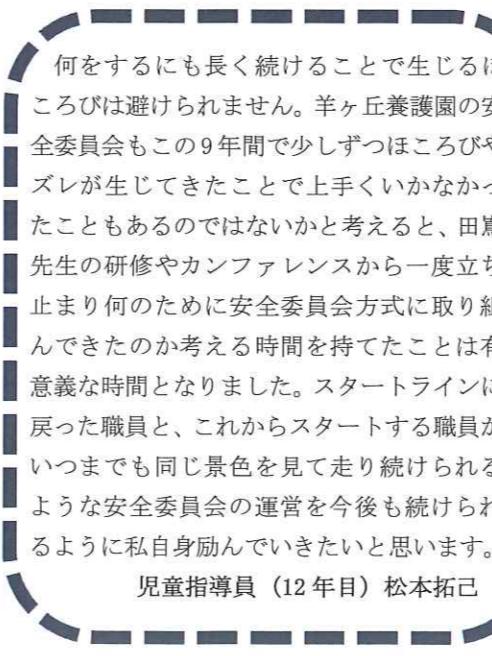
今回の研修では、田嶽先生から評価いただいた言葉の一つ一つが職員の力となり、また頑張ろうという気持ちになったことでしょう。職員構成や対象児童も変わる中、いま一度原点に立ち返り、安全委員会方式を基礎から学ぶことができたこと、本当に感謝しております。田嶽先生からの学びを無駄にしないように職員一丸となって頑張っていきたいと思います！！ありがとうございました。



## ～職員の感想～

これまで2人の子どもと一緒に厳重注意を3回受けました。今まで私は自分の指導に自信がありませんでした。同じ子どもに対してもその都度指導の仕方を変える必要があると共に、伝わり方が違うことが不安に思っていたからです。しかし今回の研修で「自信を持って指導する」ということの大切さを学びました。職員が自信を持たなくては子どもが分からなくなってしまう、子どもに正しいことを伝えるためにも自信をもつことが大事であると感じました。経験と知識をよりつけて、選択肢の幅を増やしたくさんの引き出しを持つ職員になることが今の目標です。

児童指導員（2年目）根田芽依



自分自身が「できていること」「できていないこと」を振り返り、できていないことは「なぜできていないのか」を考えることができました。私は研修に参加する前日に、初めてユニット児童の厳重注意の場に同席しました。これまで職員として厳重注意を受けた子どもに何か別の様々な関わりが出来たのではないか、職員がもう少し頑張るべきだったのではないか…など気持ちが溢れてきました。これからは、子どもへ応援していること、頑張っていることを言葉で伝え続け、その子と職員の関係性が良い方向に向かっていけるように頑張っていきたいと思います。

児童指導員（1年目）村上麻湖

